

## 令和6年度 長野県公衆衛生専門学校運営協議会 議事録

日時 令和6年(2024年)11月7日(木)午後1時30分～3時30分  
場所 公衆衛生専門学校 会議室  
出席者 【外部委員】 菅沼 香 (一般社団法人上伊那歯科医師会常務理事)  
赤羽 恵子 (長野県歯科衛生士会上伊那支部会員)  
江口 義子 (伊那市健康推進課歯科衛生士)  
宮澤 みやび (長野県公衆衛生専門学校同窓会会長)  
【学校職員】 瀬戸 斉彦校長 以下2名  
※外部委員1名欠席

### 会 議

#### 1 挨拶(瀬戸校長)

日頃より当校の運営に関し御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。特に県歯科医師会の先生方には、本当に多くの御支援をいただきこの場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

本校は歯科衛生士の養成を行い、県内を中心として多数の医療機関へ人材を送り出すことにより、県民の歯科口腔衛生の向上の一役を担っている。今年度の、診療報酬・介護報酬の同時改定において、歯科衛生士による口腔ケアの加算が拡大されたことを鑑みると、歯科衛生士の役割と需要はますます大きくなるものと思われる。本校は南信地域唯一の歯科衛生士の養成校であり、地域に根差し、地域の皆様に支えられている学校である。地域住民、関係者各位からの御意見を学校の運営に反映させるべく、令和2年度に本協議会を設置した。

忌憚のない御意見をいただき、協議会としての評価をお願いしたい。

#### 2 自己紹介

名簿に基づき順番に

#### 3 議長選任

協議会設置要綱第5条の規定により会長を互選

赤羽委員から菅沼委員を推薦、出席委員の賛同により菅沼委員を会長とする。

#### 4 会議事項(進行:菅沼会長)

##### (1) 令和5年度の学校運営について

資料に沿って事務局から説明

##### 【質疑応答】

(菅沼会長)

- ・今年の卒業式には講師の先生方を派遣している歯科医師会にも案内を出す予定か。

(吉田)

- ・今年も各郡市の会長先生に案内を出す予定でいる。

(菅沼会長)

- ・国家試験の結果報告も講師の先生方には一斉に周知するとよいと考えている。

(吉田)

- ・承知した。

##### (2) 令和5年度の学校評価案 について

資料に沿って事務局から説明

##### 【質疑応答】

(赤羽委員)

- ・ホームページは県のホームページのため入口が固いが、中身は今日の出来事など面白い。頑張っているのではないか。

(吉田)

- ・月に2回は「今日の公専校」のページで行事など更新するようにしている。今後も継続していく予定でいる。

(菅沼会長)

- ・「公衆衛生専門学校」という学校名を知らない人も多くいる。学校名から歯科衛生士の学校と言うことが分からない。今の若者は SNS の方を見ている。県立だが SNS を活用するといいいのではないか。

(瀬戸校長)

- ・情報発信は大事なこと。様々な方法があるので研究していきたい。

(菅沼会長)

- ・この学校評価は学生も評価しているのか。

(吉田)

- ・学校の運営に関することは学生には難しいため、学生は評価していない。授業評価は学生が行う。統一した授業評価の体制を構築していく予定でいる。

(菅沼会長)

- ・この評価内容は学校職員の評価でよいか。

(吉田)

- ・よい。現時点では学生には毎日学級日誌を書いてもらい、授業や学校生活などに対してコメントをもらっている。また、担任とのコミュニケーションにもなっている。

(江口委員)

- ・その取り組みは少人数制の良さであると思う。

(瀬戸校長)

- ・学校公開では学生と教員の距離が近くて良いという評価を得ている。そこに学生と教員とコミュニケーションが図れていることが表れている。

(吉田)

- ・学生がそこを魅力と感じて入学してきている。当校の魅力であるので伝統として続けていきたい。

(菅沼会長)

- ・今の学校の雰囲気을大事にして欲しい。

(菅沼会長)

- ・カウンセリングを求めている学生は多いのか。

(赤羽委員)

- ・カウンセリングを必要とする学生は何回も求めてくる。必要がない学生も多くいる。

(吉田)

- ・担任だけでは対応できず、スクールカウンセリングなしでは学校生活を送る事が難しい学生が一定数いる。

(江口委員)

- ・増えてきているのか。

(赤羽委員)

- ・コロナ禍以降から急にメンタルが持たない学生が増えている。

(菅沼会長)

- ・中学校でも不登校は増えている。専門学校は大学よりも行きやすい。不登校だった子が進学し、頑張る際にスクールカウンセリングが受けられるのは大きい。

(吉田)

- ・スクールカウンセリングは欠かせない大きな存在である。これからもお願いしていく。

### (3) 令和6年度 学校評価案 について

資料に沿って事務局から説明

- ・地域の課題は1年ですぐ変わっていくものではない。学校の姿勢として、地域の課題に則った学校の運営、教育を行っていくために、重点目標と評価項目を令和5年度同様に取り組んでいきたいと考えている。